

2019. 4

4

323号 4/15

もえぎ

小尾アサさん書

MOEGI



医療法人社団萌気会

在宅療養支援診療所

(三日町)

在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

もくじ

新年度を迎えて.....	2
社会福祉法人 桐鈴会 20周年記念事業	3
就任挨拶	4
漫画 黒岩卓夫一代記	5
人生の最終段階における医療	6
研修報告	7
うちの利用者さん&家族からの文	8

《専門外来》のご案内

浦佐診療所

☎025-777-5222

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・癌相談外来
- ・循環器内科

三日町診療所

☎025-778-0088

- ・整形・リウマチ科
- ・糖尿病専門外来
- ・物忘れ外来

あやめ診療所

☎025-780-4377

- ・生活サポート外来
(発達障害など)

電話にてご予約を承ります



4月28日(日) びしゃもん茶房
10時~12時

行事予定 (4月15日~5月14日)

5月7日(火)~5月31日(金)

東京慈恵会医科大学附属病院研修医研修

表紙写真撮影地: 伊勢崎市華蔵寺公園

往診・訪問診療も承っています。三日町診療所は年中無休(365日)です。

新年度を迎えて

医療法人萌気会
理事長 黒 岩 卓 夫



4月1日、新元号「令和」が発表されました。現在では元号が変わったからといって世の中が変わるわけではありません。私は「地域共生社会」の「**共生**」あたりでよいのだと思っています。

一方、社会（世の中）は年々、日々変わっています。また自然災害や人工災害で予期せぬ変動があるのも事実です。

私が満州から引揚げて大変動。しかし信州の山村時代（山猿ランプ少年時代6年間）は、全く変わることはありませんでした。ただ大きな台風の襲来の時だけ大きな変化があり、少年であった私はその変化をワクワクして迎えました。小川があつという間に大河(?)になり、丸木橋は流失し、崖くずれもあります（少年の家は峠にあって安全）。時には大糸線の鉄橋まで流れてしまい木製の仮橋を徐行する電車にスリルを覚えました。**そして新しい橋がかかります。**

しかし今は自然災害だけでなく東日本大震災のように、原発崩壊の大変化が社会に深甚の変化をもたらしました。江戸時代までだったら、即改元し、国の神事でお払いして、神の御加護を乞うことになったはずです。

さて、「地域共生社会」から本論に入ります。今年1月**東京大学安田講堂**で行われたNPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークと地域医療研究会の合同企画は、全共闘の運動を下地とした「**2019団塊・君たち・未来**」は大成功だったと思います。私の評価は50年の縦軸を蘇生させたことでした。連携、連携とネットワークを叫び続けていますが、端的に言って「**地域共生社会**」こそ**縦軸**、無数の物語なしには形成されません。このことだけは明言したいと思います。

さらに私個人との関係としておきますが、若い頃は一緒に歩めなかった組織のメンバーも参加してくれました。そして私へは、今後医療介護で交流をしませんかと、エールを送ってくれました。私はこれをしっかり受止めて行きたいと考えています。できれば9月の全国東京大会では共有できる具体的テーマで1シンポを企画するあたりから始めてほしいと願っています。

一方、地元では、20年にわたって連携してきた**社会福祉法人桐鈴会が20周年**を迎えます。そのメインイベントは5月26日（日）さわらびで行われる「**きたやま おさむ講演会**」です。演題は「～潔く諦めない～」です。氏は精神科医ですが、かつて「帰って来たヨッパライ」でデビューしました。私はこの歌が大好きでした。ぜひ耳を傾けて下さい。

最後に医療・介護・保育など、人の生命・生活を守る立場に立つ者は、戦争と原発だけは、健康維持どころか人類を滅ぼすものであり、絶対認められないと宣言したいと思います。

精神科医・作詞家

きたやまおさむ 講演会

「迷惑をかけあえる関係を目指す」という桐鈴会の理念にふさわしい講師としてきたやまおさむさんにおいでいただくことにした。タイトルの「潔く諦めない」はまさにそれと通じるものがあると思える。

いさぎよ あきら ～潔く諦めない～

日時 2019年
5月26日(日)
13:30 開場 14:00 開演

会場 南魚沼市コミュニティホール
さわらび
JR浦佐駅東口から970メートル
入場料 500円

●きたやまおさむ プロフィール●

「帰って来たヨッパライ」でマスコミデビュー、作詞家としての代表作は「あの素晴らしい愛をもう一度」など。主な著書に、『帰れないヨッパライたちへ～生きるための深層心理学』（NHK出版新書）、自伝的エッセー『コブのない駱駝』（岩波書店 2016 / 当日販売します）。九州大学名誉教授。精神科医として北山精神分析室における臨床活動が主な仕事。



ハーモニー

芸術・医学・宗教 三つの融合。

僧侶 有沢 昱由展

あり さわ いく ゆう

医療法人社団 萌気会 共催

有沢 昱由 あり さわ いく ゆう プロフィール

若い頃から「医療と宗教を考える会」(代表 日野原重明、運営 黒岩卓夫他)のメンバーとして活躍。

- ・東京都日本橋出身
- ・日大美術科卒、駒大大学院修了
- ・仏教大を経て、僧籍取得。仏画家。
- ・第4回日展初入選、特選2回
- ・新日春展第3回審査員
- ・浄土宗芸術家協会会員
- ・日春会(日展の日本画部)の新・旧の会員



2016年 日展会場 第6室にて

2019年

5/25(土)～7/15(月)

池田記念美術館 2F

入場料：一般 500円 (団体割引：20名様以上 400円)
北里大学保健衛生専門学院学生、高校生以下無料
障害者手帳をお持ちの方は 400円 (手帳をご提示ください)
開館時間：午前9時～午後5時 (入館は開館の30分前まで)
休館日：毎週水曜日 (祝日等の場合は翌日)

主催：社会福祉法人 桐鈴会 共催：医療法人社団 萌気会
後援：南魚沼市 / 南魚沼市教育委員会
協賛：北里大学保健衛生専門学院 / 池田記念美術館

お問合せ

- ケアハウス鈴懸 TEL 025-780-4118
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 5142-1
- 池田記念美術館 TEL 025-780-4080
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 5493-3

就任挨拶

己の欲せざる所は 人に施す勿れ

(医) 萌気会 事務局次長(医療担当)
荒井 紀 洋



萌気会は地域住民に医療・介護サービスを提供して27年目。
その長い期間蓄積された実績と信頼をさらに積み上げ、厚くしたい。

萌気会スタッフの思い、萌気会の伝統、患者（利用者）、患者（利用者）
家族の気持ちを理解し、今後の方向性を皆で考え、意見を出し合いながら
作り上げていきます。

もちろん萌気会単独ではなく、一緒に医療、介護に取り組んできた団体、
取引先企業や行政他の組織とともに、この地域の医療、介護を輝くものに
していきます。

全力で頑張りますので、よろしくお願いいたします。

<自己紹介>

旧小出町の十日町で生まれ育ち、東京で延べ10年ほど過ごし魚沼に帰ってきました。

現在は妻と娘（3歳、1歳）、母親の5人家族で男性は私一人です。

最近は1歳の娘が私には理解できない言葉を話し始めたため、とても賑やかな毎日を過ごしています。

大学を卒業後、小出町役場、魚沼市役所に12年ほど勤務し、商工観光業や市町村合併などに携わってきました。

その後、東京の600床規模の精神科病院で人事・労務業務を担当したことをきっかけに、医療業界に携わること
になりました。採用や規定整備、入退職、労災対応、労働組合との折衝のほか、病棟の入院患者数や診療報酬など
の数値からレポートを作成し、会議に報告するなどの業務が多く、メディカルスタッフを支える立場で業務を行って
きました。

趣味はスキーと山登りですが、最近は娘たちの子守りのため出かける機会がめっきり減りました。近い将来、娘
たちを連れて山登りやスキーなど、自然に恵まれたこの地域の良さを教えていきたいと思っています。

また、自分ではあまり採りに行きませんが、山菜やキノコが大好きなので、自然の恵みは身体で楽しむだけでは
なく、舌で味わうことも大事なことだと感じています。

『私にとっての家とは何か』
心の家、そして物語の家

2019年6月16日(日)
13:30 開演 / 17:30 終了予定
普光寺(越後浦佐門堂内)
新潟県南魚沼市浦佐 2485 番地
参加費: 一般 1,000 円 / 会員・学生 500 円

御勤め
法 話 普光寺 住職 樺澤賢正氏

第1部 雅楽 演奏 井上陽雄氏 他
第2部 基調講演 黒岩卓夫氏
「私にとっての家とは何か」心の家、そして物語の家
第3部 お楽しみ演奏会 高波礼子氏 ソプラノ
鬼頭啓子氏 キーボード
マクレラン松子氏 フルート
第4部 聴いて話そう、
それぞれの思いを。(小グループによる談話)

* 終了後 懇親会的交流会があります。

新潟いのちの物語を
つむぐ会
第4回例会
南魚沼浦佐

新潟いのちの物語をつむぐ会

普光寺
交通: 上越新幹線・上越線浦佐駅より
徒歩5分



昭和25年3月、美麻南中学校の卒業生は47人。進学（全日制）は6人（男5、女1）。松本深志高校は当時県下1の進学校。卓夫少年はなによりトンボ（蜻蛉）をあしらった校章にあこがれた。トンボは蜻蛉州（アキツシマ）からとり、アキツシマは日本の古名：大和の国のことである。神武天皇が大和の国を山上から眺めて蜻蛉の姿と言ったと伝えられている。



人生の最終段階における医療

主催／地域医療研究会

シンポジスト参加報告

萌気園訪問看護ステーション

「ゆいま〜」管理者 川部 弘子



3月17日、東京都千代田区の自治労会館で「地域医療研究会」主催のシンポジウムが開催された。テーマは「人生の最終段階における医療・ケア」であり、私たち医療・介護従事者は、患者さんや高齢者の「死」にどう立ち向かうべきなのかを学びあうシンポジウムであった。

あるシンポジストの先生は「主に老人に対し必要な治療をしないことは、消極的安楽死ではないか。厚生省のガイドラインは医療費削減のための政策を目的としているのではないか」と話された。

また他の先生は「誰しもがもつ（内なる優性）から、障害者や老人を弱者としてみなしているのではないか。ナチス政権下の時と同じで、生きるに値する命を終わらせる行為とした優性思想を国は正当化しているのではないか」等の発言があった。

私もシンポジストの一人として「在宅看護からみえた尊厳死とは」とのテーマで発表した。萌気会の訪問看護の一員として、実際に体験した看取りの2例から見えてきた「人としての尊厳ある死に方はどういうことなのか」を話させていただいた。

私は20数年間病院に勤務してきた。看護するにあたり「生活の場でこそ個人を尊重して向き合える」と思い、在宅医療に転向した。訪問看護をして思うことは、患者さんが自分らしく生活を生きぬく中に、医療も生きてくると強く感じている。そして死を迎える人にとっても、その人らしい終末を迎えることが平穏死だと思う。在宅医療でこそなしえる無駄な延命治療をしないことが、自然体であり平穏な終末ではないかと考えている。

超高齢少子多死社会の現代において、最期まで尊厳を尊重した人間の生き方に着目した医療を目指すことが重要であるとの考え方にに基づき、H30年3月に厚生労働省から「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」が公表された。その中で、アドバンス・ケア・プランニングとして、適切な情報の提供と説明がなされ、心身の状態の変化等に応じて、本人の意思は変化し得るものであり、医療・ケアの方針や、どのような生き方を望むか等を、日頃から繰り返し話し合うことの重要性が盛り込まれている。

人生の最終段階、看取りにおいて、私たち医療者は必ず関わる。私たち医療者から発信し、多死社会の今こそ、一人ひとりが関心を持って自身の終末の責任を問い、共に考える事が大切なのではないか。確かな情報や、グローバルな視点を持って自身の問題としてとらえること。今回はその事を考える良い機会になった。





新人新入社員オリエンテーション

研修報告

事務局 高橋 由香

4月1日(月)～5日(金)の5日間、介護事業所配属の実務未経験者・新卒者のための基礎研修を実施しました。

講義・演習内容は、①法人事業の理解 ②ビジネスマナー ③基本的な介護知識と技術の習得です。配属される前段階での基礎研修は、今回が初の試み。研修の目的は、実務研修時の負担を軽減すること。入職者と在職職員双方が「0からのスタート」ではなく、現場へ送出す支援として「基本的な業務が出来る」を目標としました。配属先での立ち位置が解り、疎外感なく従事できる環境が「安心して働ける職場」だと思います。

次は、現場での実務研修の始まりです。人材育成は、担当者だけではなく組織全体で柔軟な対応ができればと考えます。今後も事務局としてフォローアップ体制で取組みます。習得・達成状況からの目標提示、ストレスケア、資格取得など萌気会でのキャリアアップを支援します。

何事も挑戦。受け入れる側も即戦力となる次世代を育てながら一緒に成長して行きましょう。

3カ月後のフォローアップ研修で、成長した姿を見るのを楽しみにしています。



佐藤 秦規
萌気園大和通所介護
「地蔵の湯」

<自己紹介>

この春から萌気会でお世話になることになりました。趣味は特にはないのですが、行き先を決めないドライブが好きです。

村上から浦佐に引っ越して一人暮らしをするようになったので、これを機に少し凝った料理などに挑戦したいと思っています。写真は愛犬のハルとの一枚。

今年の抱負・目標

オリエンテーションでは、基礎的な介護の知識を教えていただいただけでなく、研修の中で疑問に思ったことにもわかりやすく丁寧に答えていただきました。

また、実習では「すみれ草」の利用者の皆様と実際に触れ合い、利用者とのコミュニケーションの取り方をより実際の現場に近い形で体験することができました。

私は今まで介護に直接携わることがなかったので、このオリエンテーションで学んだ知識と経験を今後の仕事に活かしていきたいです。



小幡 桃香
萌気園大和通所介護
「地蔵の湯」

<自己紹介>

趣味は、ゲームをすることです。特に FPS（ファーストパーソン・シューター）系のゲームが好きです。ツムツムもします。

学生時代は接客のアルバイトをしていたので、人と話したり接したりすることが大好きです。

今年の抱負・目標

社会人としての第一歩を、萌気会で迎えられたことを嬉しく思います。

初めて経験する事ばかりでとても不安でしたが、優しい指導、励ましの言葉にとっても感謝しています。

配属先では先輩方に多くのことを教わりながら、一日でも早く即戦力になれるよう、一生懸命頑張りますので、宜しくお願いします。

うちの利用者さん

南雲 清様

(萌気園大和通所介護「地蔵の湯」利用者)



「南雲さんはどんなお仕事をされていたんですか？」

「ずっと農業をしてきたんだよ。作った農作物を売って生活してきたんだよ。」

「地蔵の湯のお風呂はいかがですか？」

「地蔵の湯のお風呂は好きだよ。良い香りがするし、あったまるからいい温泉だと思うよ。」

「南雲さんはどんな食べ物が好きですか？」

「甘い物よりはしょっぱい物の方が好きだなあ。酒も好きだよ。酒は辛口が好きだなあ。戦時中は酒も配給制だったから、1人あたり一合程度の酒が家族の人数分配られていたんだよ。あまりおいしい酒ではなかったけど、村の配給所に一升瓶を持って行って酒を受け取ると嬉しかったよ。戦争が終わって、また以前のように好みの酒が買えるようになったから、本当に有り難いと思っているよ。」

「いつも南部牛追い唄を上手に歌われていますね。」

「歌は歌うのも聴くのも好きだよ。南部牛追い唄は若い時からたくさん歌って練習したよ。」

これから地蔵の湯で、元気な歌声をたくさん聴かせてください。

〈地蔵の湯 職員〉

ふみ



萌気園の皆様、いつも有難うございます。家中でお世話になっております。色々な形でたくさんの方々に助けていただいているので、安心して年を取って行けるような気がしています。萌気園がとってもよかったといつも感謝しています。

今は夫が、もえぎ元気アップ教室にお世話になっています。朝「お早うございます。お迎えに来ました。」と爽やかに、にこやかにまるでお客様のように、申し訳ないように思いながら車を見送る妻ですが、夫は出かける朝の身支度などはほとんど一人でやっていますので、これも教室に行つて体操をする事だけでなく、御一緒の方々や先生方との会話も楽しい時間なのだな…と思います。

実は我が家では、父も母も萌気園さんの皆様のお世話になっていました。母などは地蔵の湯に何年も通つて「いい所だ。」と喜びながら、96才まで長生きしてくれました。最後は自宅で黒岩先生に手を握ってもらいながら、まるで笑っているような顔で旅立ちました。

そして今、私たち夫婦は朝の挨拶のように「アイタタタ」「ドッコイシヨ」で始まり、「葉飲んだかい？」と続く88才と84才、まだそれなり(?)の夫婦ですが、柱の夫に元気でいてもらいたいと願っています。これから色々な形で夫婦共にお世話になる事が多くなるとは思いますが、どうか宜しくお願い致します。

『はつとかん』が『放つて置かんよ』と又、『暖(ホット)かい心の館』と一人感じている妻からの感謝の気持ちを込めて、これからも宜しくお願い致します。
へもえぎ元気アップ教室利用者 行方宗様ご家族

編集後記

☆四月一日に新元号が「令和」と発表され、五月一日から新しい時代の始まりです。

「初春の令月(れいげつ)にして、氣淑(きよ)きよ)く風和(ふうわ)ぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薫す。」(万葉集の抜粋)
「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。」との願いが込められているそうです。日本の皆様が笑顔で、希望をもてる新時代になればと、切に願っております。



〈中島〉